

病理専門医制度運営委員会だより（第 4 号）

1. 病理専門医資格更新に関する重要なお知らせ：

前回及び前々回の「委員会だより」でも記載しましたが、病理専門医の皆様には、本年 4 月初旬に郵送で病理専門医資格更新基準の変更についての案内が送られておりますので、改めて熟読の上、内容のご理解をいただきたいと思ひます。4 月に皆様にお送りしました文書一式は、確定しました新しい病理専門医資格更新基準であり、本年度よりこの基準で資格更新の審査を行うこととなります。特に、本年度（2015 年秋）に更新を迎える先生方は、新しい基準の内容をよくご理解の上で更新の手続きをしていただきたいと思ひます。2016 年度（2015 年秋申請）～2020 年度（2019 年秋申請）の 5 年間は移行措置として日本専門医機構（以下「機構」という。）の定める更新単位と、これまでの学会専門医の更新単位を合わせたものが更新基準となっており、更新年度によって単位配分も異なりますので、ご注意ください。

前回の「委員会だより」にも案内させていただきましたように、事情によりこれまで病理専門医資格更新を保留されている先生方は、「一度病理学会専門医に復帰していただき、次回更新時より機構での専門医資格更新を目指していただく」ことになっています。現時点で更新保留の専門医の先生方は、まずはこれまでの基準（病理学会総会出席 1 回 20 点など、5 年で合計 100 点）による「病理学会専門医」に復帰してください。2021 年度（2020 年秋の申請）から、学会専門医更新申請はなくなるため、復帰の手続きを怠った場合は、機構が定めた資格喪失の理由書を提出し委員会の審査を受け、更に 5 年間の回復期間を経るなど所定の手続きを取っていただく必要があります。対象となる先生方はくれぐれもご理解いただきたいと思ひます。なお、資格更新の保留状態になっている先生方は、この文章を含め、専門医に関する情報から離れている可能性もありますので、お近くにそのような先生が見えた場合は、是非新しい専門医に関する情報を教えていただきたいと思ひます。

機構による専門医更新には「専門医共通講習」の受講（移行期間終了後の 2021 年度より 5 年間で 5 単位以上）が必要です。このうち「医療安全」「医療倫理」「医療感染」の 3 つは必修です。専門医共通講習については、病理学会より認定されている施設（認定施設と登録施設、今後は基幹施設と連携施設）で行われたものでも代用可能です。この場合、施設長が発行した受講証が必要となりますので、各施設の責任者にご確認ください。受講証の雛形は病理学会ホームページに掲載されております。「診療領域別講習」については、病理学会主催の学術総会における、指定された講習会（臓器別診断講習会など）や各支部会での特別講演等が対象となります。こちらは専門医共通講習と

異なり、各施設における講習会はクレジットの対象にはなりませんので、ご理解ください。

2. 病理専門医研修施設と研修プログラムについて：

前回の「委員会だより」でも記載しましたように、新しい研修プログラムでは基幹施設を中心として、原則的に連携施設との間をローテートする方針が示されています。従いまして、今後は各地域で基幹施設（大学病院と一部の分院及び一部の現認定施設）と連携施設による専門研修病院群を構築していただくこととなります。詳細については、本稿の著者であり、専門医機構の基本領域専門医委員会と基本領域研修委員会の両方の委員である北川、清水、村田の 3 名で、6 月から 7 月にかけて各支部で説明会を開催させていただきましたが、この時に使用しました資料と、よくある質問を病理学会の HP（会員専用）にアップしてありますので一度は目を通して確認していただきますようお願いいたします。

(https://center6.umin.ac.jp/oasis/pathology/senmonikenshu_150813.html)

モデルプログラムとして都市型大学のもの（東京医科歯科大学例）と地方型のもの（三重大学例）を準備し、こちらも 9 月 11 日に病理学会の HP にアップしました。今後の日程についても記載しましたので、特にプログラム作成にかかわる先生方はご確認をお願いします（病理学会宛のプログラム事前審査提出期限は平成 27 年 12 月 18 日必着です）。これまでは平成 28 年 4 月に各領域のプログラムが公開される予定となっておりましたが、9 月 18 日に開催されました機構によるプログラム事前説明会で、この日程が遅れ気味であることが示唆されました。とはいえ、病理学会では当初の日程通りに今後も進行する予定です。なお、これまで出てきましたプログラム作成に関する質問をまとめて、「プログラム作成に関する Q&A」も作成する予定です。これらのご参考の上、各研修病院群で話し合いをされ、一人でも多くの病理専攻医の受入れができるように、また病理希望者が専攻医になれないような事態を防ぐために、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

3. 「新専門医制度について」ページ新設のお知らせ

病理学会では新研修制度、新更新制度について多くの会員に知っていただけるよう、新しいページを新設いたしました。新しい情報や変更がございましたら随時更新いたしますので、下記より是非ご覧ください。

日本病理学会ホームページトップ>専門医>新専門医制度について

(<http://pathology.or.jp/senmoni/newsystem.html>)

4. 今後の日程について：

・平成 27 年度細胞診講習会は、平成 28 年 2 月 13-14 日に大阪市立大学で開催されます。

・平成 28 年度病理専門医試験は、平成 28 年 8 月 6-7 日に東邦大学で行われます。

・現在の 1 年次初期臨床研修医に対する専門研修プログラム選択時期は、平成 28 年 8 月以降（10 月くらい）に行われる予定です。

（文責：黒田誠・北川昌伸・清水道生・村田哲也）

==特集=====

試験を振り返って

秋田大学医学部附属病院 病理診断科 廣嶋 優子
試験から四週間、依然として燃え尽き症候群が続いております。おかげさまで合格させていただいた私の試験までの過程をご紹介します。

試験勉強を始めたのは、4 月頃と思います。由利組合総合病院の山内先生に教わった通りの「病理組織の見方と鑑別診断」, 「組織病理アトラス」, 「病理診断アトラス vol. 1-3」, 更に新しく出版された「病理診断クイックリファレンス」の計 6 冊を繰り返して読みました。何度読んでも頭に入らない疾患もいくつかありましたが、過去に出題された疾患だけは最低限、覚えるように心がけました。III 型問題対策としては、「病理と臨床」の CPC 解説を 5 年分コピーし、フローチャートにする練習をしました。その他、独自の対策としましては、「試験委員の先生がして下さる指導的誘導に素直に乗るように」と言われていた面接の練習を行いました。いつも私の面倒を見てくれる病理部のスタッフに付き合ってもらい、柔軟に診断を組み立て直す練習をしました。症例を心不全と仮定して行っていたため、何度も繰り返すすぎて、当日は何を質問されても「すみません、鬱血です。」と言いそうでした。ですので、あまりおすすめるはしません。予想問題も考えてみたりしましたが、一つも当たりませんでした。細胞診講習会のテキストは斜め読みしたものの、結果的に細胞診は捨てたかたちになりました。今後の課題としたいと思います。

スライドセットを作る余裕は到底なく、弘前大学の諸橋先生が揃えられた素晴らしいセットを試験の 2 週間前に見せていただきました。諸橋先生、その節は本当にお世話になりました！とても充実した楽しい時間を過ごさせていただきました。

試験当日、プレパラートが巡ってくる IIc 型問題では解答欄を間違えて書き始め、III 型問題では案の定時間が足りなくなり、それなりにたくさんのミスをし、試験を終えての手応えもいまひとつでしたが、なんとか無事に乗り切ることができました。

本学の器官病態学講座後藤教授、分子病態学講座大森教授をはじめとする諸先生方、並びに解剖を教えていただいている由利組合総合病院の杉田先生、山内先生、ご協力いただいた病理部の皆様、そしてわがままな私に最大限の自由を与えてくださり、日々ご指導いただいている南條先生には大変感謝しており

ます。今後は、少しでも先生方に近づくことができるよう、そしてお役に立てるよう努力していく所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。ありがとうございました。

病理専門医試験合格体験記

福島県立医科大学医学部病理病態診断学講座 川名 聡

この度無事病理専門医試験に合格することができました。私の拙い文章が今後受験される方々の参考になるのか甚だ不安ではありますが、何か感じ取って頂けましたら幸いです。

私の受験上の問題点は、出願書類準備に全て集約されるといっても過言ではありません。日常業務の忙しさを理由に剖検診断を後回しにし続けたことが祟り、出願締切前 2 ヶ月ほどで十数件を診断する必要に迫られました。1 日平均 2~4 件程度並行して扱わねばならず、平日はほぼ毎日夜中までかかり、休日ほぼ全て剖検診断に充てていました。各種書類の準備も、評価表のチェック以外は出願直前まではほぼ手付かずで、まとめて揃えるのは大変な手間でした。特に、診断書印刷・個人情報削除や症例リスト作成には時間がかかりました。「計画的な」準備は言うは易し行うは難しという事が多いと思われませんが、ここまで極端になると本当に大変です。結果、帰宅はほぼ毎日午前 1-2 時で、生後 2-3 か月の娘の育児をほぼ全て妻に押しつけてしまい、夫婦とも体力的にも精神的にも大変過酷な 2 か月でした。

出願後しばらくは疲労困憊で勉強は全く手つかずでしたが、5 月末に受験可能との通知を頂いたこともあり、6 月になってからようやく勉強を始めました。

I 型・II 型問題は、病理学会 HP の試験実施報告書の出題一覧表から重点課題をリストアップし、「外科病理学」や「病理診断クイックリファレンス」で一つずつ潰しました。また当院では診断する機会がほとんどない神経病理と皮膚病理（特に付属器腫瘍）は系統的な学習が必要と考え、「エスクロール基本神経病理学」と「みき先生の皮膚病理診断 ABC 2 付属器系病変」を通読しました。

III 型試験は、公開されている問題文を元に臨床所見のみで描ける範囲でチャートを作成しました。剖検講習会のハンドアウトには肉眼写真や組織写真も一部載っているため、手元にある年度はそれも活用しました。作成したチャートと模範解答のチャートを見比べ、写真や標本の所見を想像し、病態把握についての出題意図を推測する、という作業を繰り返しました。

受験しての感想は、出題されるのは典型的なものばかりでした。病理専門医であれば誰が見ても同じ診断が出てくるように意図した診断精度管理事業、という側面があるのでしょうか。受験対策として教科書等で典型例を学習することももちろん重要ですが、それ以上に「偏った、尖った」診断に走らない思考トレーニングが重要と思いました。また III 型問題は、自ら執

刀した症例などでチャートを書き慣れていないと対応し難いでしょう。これらは一朝一夕には身につけませんので、日常業務の中で常に意識するしかないと思います。

最後に、研修をご指導頂いた橋本優子教授ならびに講座関係者の方々、本学病理部職員の方々に感謝申し上げます。また入局に先立ち、臨床研修中に北海道大学病院病理部で松野吉宏教授はじめ関係者の方々にご指導いただき、病理医として働く上での基礎の基礎を築いて頂けたと感じています。併せて感謝申し上げます。

病理専門医試験・合格への道のり

山梨大学医学部附属病院 病理診断科 大石 直輝

私は初期研修を郷里の磐田市立総合病院で行ったのち、母校の山梨大学大学院人体病理学講座に進み、この春学位を取得しました。一方、大学病院と外勤先で病理診断を学び、今回の専門医試験に合格することができました。

得てして試験勉強は思うように進みません。私自身、臨床医である妻から「本当に大丈夫？」と心配される始末でしたが、多少の試験対策を自分なりにしましたので、今後受験される先生方の参考になればと思い紹介します。

【I型・II型問題】

当初は教科書を通読しノートにまとめる構想でしたが、すぐさま挫折し、結果的に網羅的な勉強は出来ませんでした。脳腫瘍の経験が不十分と感じていたので、この領域は代表的疾患を20例ほど再薄切してスライドセットをつくりました。さらに、口腔など苦手意識があった領域は、Googleで検索した組織画像をiPadに保存し勉強しました。所見が揃った典型例を探すので、画像収集も意外と効果的です。また、試験問題の多くは臨床的にも典型的な症例です。問題文に年齢、性別、部位、簡単な臨床経過が記載されており、ヒントになります。したがって、疾患の臨床的特徴も併せて勉強すると大変役立ちます。

【III型問題】

試験、実務を問わず剖検は、医師としての総合力が問われる分野だと思います。日頃から①肉眼所見を丁寧にとる、②病理解剖診断報告書に病態を考察したサマリーをつける、③フローチャートを作成する、ことを心がけていました。特に①に関しては、試験でも臨床所見・肉眼所見で大まかに病態が把握できる症例が出題されます。組織所見に過度に依存することなく、肉眼所見から病態を的確に読みとる力が大切だと再認識しました。また、病理診断講習会ハンドアウトに掲載されている過去問を数年分ほど解きました。模範解答を流し読みするのではなく、必ず自分で筆記して解答をまとめることを強くお奨めします。試験問題の多くは、全身臓器に影響が及ぶ疾患、例えば心内膜炎や膠原病です。脳の標本も毎年出ていますし、ラテント癌もよく出題されます。こうした特徴を理解し、各所

見、病態を漏れなく記載できているか、模範解答と照らし合わせて勉強しました。

しかしながら、何よりの試験対策は日常の診断業務、すなわちHE染色を基盤として所見を丁寧にとり、鑑別診断を挙げたうえで成書を確認し、指導医とよくディスカッションすることに尽きると思います。その点で、私は本当によき師に恵まれました。お世話になったすべての先生を挙げることは紙面の都合上できませんが、生意気な私を温かく指導して下さい、加藤良平先生、近藤哲夫先生、中澤匡男先生（山梨大学）、谷岡書彦先生（磐田市立総合病院）、外勤でお世話になった小山敏雄先生（山梨県立中央病院）、宮田和幸先生（甲府市立病院）には特に深謝申し上げます。今後もよりよい病理診断を目指し、日々精進していきたいと思っています。

病理専門医試験・合格への道のり

順天堂大学医学部附属練馬病院 病理診断科
坂口 亜寿美

8月12日、専門医試験結果通知は突然に容赦なくやってきました。開封する決心がつくまで半日を要しましたが、低空飛行ながら奇跡的に合格を頂いたため、反面教師的に読んで頂ければという思いで試験を振り返ってみます。

試験対策は一言でいえば先輩方の合格体験記を読んでひたすら真似をした、これに尽きます。GWもあけ重い腰を上げたところで、まず「試験要綱って疾患名の羅列だけで一体何ページあるんだ!？」と愕然とし、先行き不透明な中、まずは知らない疾患を調べる所から始めましたが、これに予想外に時間が掛かりました。元々、産休や子育てとの両立で経験値は圧倒的に低い上、要綱中の疾患でも実際に標本を見られない物も数多くあり、これらは覚えるのに苦労しました。診断のプロセスは数ある所見の中から“それらしさ”をいかに抽出するかということではないかと思いますが、見たことのない疾患に関してはそのベースがないため、教科書に掲載された組織写真1-2枚では、丁度その部分が出題されない限り診断が難しいと感じました。そこで、これまで単一の教科書を繰り返し読んで知識の定着を図っていましたが、発想を変え一つの疾患について色々な教科書の様々なアングル、倍率で撮影された組織写真で“それらしさ”を丸ごと覚えることにしました。そして隙間時間には○×問題に細胞診、保険点数改定のチェック。気づけば試験まで残すところ1週間となっていました。しかしIII型試験対策はこの時点でも放置していました。というのも、先輩方の体験記では臨床経過だけでかなり正解に近づけると記載があり、確かに過去問を実際に解いてみると標本や写真がなくてもある程度回答できたため、まずそこでポジティブな勘違いをしていたのです。さらに、私の病院ではCPCが盛んで、研修医は“デスサマリー”なる『詳細な』臨床経過の提出が必須となってお

り、病理医はこれを用いて剖検診断し、ほとんどがそのままCPCになるため、解剖の度にIII型問題を解くような状況で、何となく大丈夫だろうと思いついていました。しかし本番の試験は過去問とは大分勝手が異なり、まず文章中の所見に対応する写真、組織がどれなのかを一つずつ確認していく作業だけでも時間がかかり、甘かったな〜と気づくも後の祭り、初っ端からパニックに陥り、なんとか落ち着け、落ち着けと臨床経過を読み終えると、なんとすでに1時間経っており、パニック再来。残りの写真と標本は一つずつ見ていくも、緊張のあまり見たそばから全て霞のようになって脳内で放散していきまじ、何が何やら頭の中はもはやカオスで、気づけばあと30分！もう軽くクラッとしました。…しかし、その時、標本のある所見に目が止まりました。しかもあちこちに同様の所見があるではないですか！「ん？何か見覚えがあるような…あ！前に、たまたま上司に見せてもらったコレステリン塞栓症、これだ！神様もしくは仏様になった患者様？が降臨した瞬間でした。ここから終了の合図まで必死で覚えておりませんが、ペーパーはご想像通りと思いますので、心優しい面接官の先生方に本当に救って頂いたと思います。

ところで私は、つくづくラッキーな星の下に生まれたなといつも思います。周りの方に恵まれ、困った時には手を差し伸べて下さる誰かがいて、世界で一番の家族もいる…この試験（に限らず日々いつも）を乗り越えられたのは特に、日々お世話になっている松本俊治先生、小倉加奈子先生、外勤先の先生方、細胞診の特訓に時間を割いて下さった青木さんをはじめとする技師の皆様、事務の平松さん、理解ある主人、可愛い怪獣息子二匹（人？）と彼らの面倒を見て勉強時間を作ってくれた父母のお陰です。この幸せに感謝し、そしてラッキーに甘えすぎることなく、ここからが本当の病理医としてのスタートだと気を引き締め、日々精進して参りたいと思います。最後に、試験委員の諸先生方、関係者の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

病理医への道〜病理専門医試験を終えて

福井大学医学部病因病態医学講座腫瘍病理学 酒井 康弘
この筆を執るにあたり、ふと、小弟の病理医への道を懐古しました。医者になりたいと思った最初の契機は、幼少時にNHKで放送されていた「救命戦士ナノセイバー」というアニメでした。医者が体内に縮小して入り込み、診断と治療を施すという作品でした。それは実在する病気や実際の解剖学・病理学的見地から話が創出されており、様々な病気が組織や細胞の障害に起因すること、その障害と症状・徴候という表現型が整然と連関することに幼心ながら感動しました。医学生時代に病理学という学問を知り、「ナノセイバー」になれると軒昂して、初期研修終了後すぐに病理学を専攻しました。

信州大学分子病理学講座の大学院生となり、幼時の憧憬を追い、病理学研究と病理診断の両立を模索する日々が続きました（結局両立できなかったようにも思います）。何とか学位は修めたものの病理診断の経験が足りない焦り、福井大学病院に移ってからは専ら病理診断学の研鑽を積むとともに、専門医試験の勉強を始めました。I型・II型問題対策としては「Robbins Pathologic Basis of Disease」を読もうと挑みました。当然迎える敵は超弩級で、小弟が読破できる訳は毛頭無いのですが、腫瘍をはじめ日常診断で遭遇しやすい疾患を中心に読み進めました。さすがRobbinsで、種々の分類の根拠や分子生物学的背景などが良くまとまっており、様々な疑問が氷解していく様は読んでいて痛快でした。一方で、組織像→診断名という直列回路があまり繋がっていないことに焦慮し、その後は過去の合格体験記で頻出の「組織病理アトラス」を通読しました。またインターネットで組織像をググり、診断経験がない症例のflash cardsを自作して、組織像と診断名が一致するよう幾度も見返しました。

他方、III型問題は楽観し過ぎていました。院生時代は小弟の解剖当番日に限って解剖依頼が舞い込み、しかもほぼ全例がCPCに付されるといふ苦行(?)に励んでいたもので、特に対策をしていなかったのですが、臓器実物に触れることができず、少ない標本から病態を慮るのは難しかったです。きっと他の先生方がこの体験記に書かれているであろう如くIII型問題の対策も講じるべきだったと猛省していますが、小弟の場合は苦行(愛の鞭)の甲斐あってか及第点を頂くことができました。

病理医になって、さすがに幼少の頃に思い描いていた体内に入り込み組織を「見上げる」ことは未だ叶いませんが、採取された組織に隠された病の世界の一端を顕微鏡を使って「見下ろす」ことはできます。「ナノセイバー」よりは寧ろ「マイクロセイバー」でしょうか？病理医（マイクロセイバー）としてやっとな歩目を踏み出したに過ぎませんが、益々精進して広大な病の世界を探訪していきたいと思ひます。

最後に。小弟の一番の幸せは師にとっても恵まれたことです。福井大学病院の今村好章先生をはじめ、福井大学・信州大学双方の先生方から多くのご指導を賜りました。また、三重県出身の好誼で色々親身にご相談に乗って頂いた鈴鹿中央総合病院の村田哲也先生、そして小弟の今のbig bossで病理学へ誘って頂いた小林基弘先生に、この場を借りて感謝申し上げます。

二足のわらじをはきながら

大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座

田原 紳一郎

今病理に進む多くの方は、病院で病理診断を行うことを考えていることでしょう。病理診断は極めて簡略化すると、肉眼観察→切り出し→HE標本の評価→適切な免疫、特殊染色の選択

及び評価、というステップに集約されます。私も病理診断がしたいと思い病理の研修を始め、その中でやりがいも充分感じることが出来ました。しかし研修を続けるうち、およそ40年間も上記の世界で生きるのであれば、一度病理診断を別な視点から眺めてみたいと考えるようになり、後期研修3年目から大阪大学病態病理学講座の大学院生として研究と病理診断を同時に進めていくことにしました。その後は概ね60%の時間を研究に、残りを大学及び関連病院での病理診断、解剖にあてています。自分は現在大学院3回生で学位論文のデータを集めている最中ですので、今回の合格ではまだまだ道半ばですが、このような貴重な機会を与えて下さったことに感謝し、これまでの道のりで感じたことを書かせて頂きます。今後専門医を目指す方々の参考に少しでもなれば幸いです。

1. 研究と病理診断は相性が良い：実験は待ち時間が多く、うまくいかない際にはその先の予定がキャンセルになり急に暇になることもしばしばです。一方病理診断は他の診療科に比べ、比較的時間を自由に使えます。そこで私は実験の空き時間を使いながら病理診断をしていました。また同世代の理系研究者が既に大きな成果を挙げている中で、研究にこれまで何も関わってこなかった自分がこの年から始めることは不安でしたが、病理医が標本を通して得られる知見と分子生物学的な知見の融合という意味では、まだ掘り返されていない宝物も多いと感じます。

2. しかし診断量はやはり減る：最初の2年間の後期研修で感じたことですが、ある程度1例1例を丁寧に診断する習慣が出来れば、あとは良質な症例をどれだけたくさん見るかが大切です。その意味でこの時期に診断量が減るとするのはやはり大きなダメージです。これに関しては他の人の診断する標本、本や勉強会で得た知識を少しでも自分の不足する経験の補充にあてるしかありません。

このような中で無事合格にたどりつくことが出来ましたが、これには研究を一から教えてくれたこと、自分の立場に最大限の配慮をしてもらったこと、興味深い症例を快く見せてくれたことなどの周囲の方のサポートなしには不可能でした。最後になりましたが、病理診断、解剖を一から丁寧に教え、常に積極的に学び続ける姿勢を自ら示して下さった兵庫県立がんセンター 佐久間淑子先生、兵庫県立尼崎総合医療センター 鷹巢晃昌先生、指導は時に厳しくも常に温かく見守って下さった国立病院機構大阪医療センター 眞能正幸先生、肺病理診断の面白さを教えて下さった奈良県立医科大学 大林千穂先生、見知らぬ非専門医を外勤として快く受け入れて下さり、病理診断の修練と経済面の両立を叶えて下さった大阪大学関連病院の先生方、そして夢を具体化する方法を何も知らなかった私が迷うことなく進める道を切り開いて下さった大阪大学 森井英一先生に御礼申し上げます。

病理専門医試験合格体験記

岩国医療センター 臨床検査科 林 詠子

私は初期研修終了後、大学院で研究と勉強を4年間させていただき、その後市中病院に赴任し、その3年目で受験しました。受験の1年前くらいから来年は受験だなと覚悟し、先輩方に伺って、テキスト類は揃えていたのですが、本気で勉強を始めたのは結局試験の2ヶ月前でした。今回は、その2ヶ月でどんな勉強をしたのか、書いてみたいと思います。

先輩方の助言を受けて準備したものは、組織病理アトラス、病理組織の見方と鑑別診断、病理診断アトラス3冊、ポケット細胞診アトラスです。2ヶ月前：III型やII型問題から逃げて、I型文章題から勉強を始める。診療点数表（白本）や法律を調べるなど、結局はこの分野を一番まじめに勉強したかもしれません。配点が低いので努力は報われませんが、今後の診療には役立つと信じたいです。それと、ポケット細胞診アトラスを通勤の電車内で少しずつ読みました。1.5ヶ月前：III型問題対策として、肝不全・DM・SLE・敗血症などの、出題されそうな全身疾患の病態図をそれぞれ作る。同時に、過去のIII型問題を解く&剖検講習会の復習をする。1ヶ月前：組織病理アトラスなどのテキストを読み通すのは時間的に無理で非効率と判断し、研修要綱細目の疾患一覧で分からない組織像を、様々なテキストを参考にして調べて覚える。2週前：病理診断アトラス3冊と過去の彩の国ハンドアウトの実習症例のページで、組織写真のみで疾患名を答えられるように繰り返し訓練する。主なものしか挙げていませんが、以上の勉強でI型とII型の合格点は取れるのではないかと思います。

そして、ここから反省点です。① 剖検講習会や合格体験記で、III型問題の組織標本を見ることに時間をかけすぎると、何度も注意を受けていたこともあり、試験中の極度の緊張状態で、ざっとしか標本を見ず、所見を見落とすミスをしました。一度病態を考えていってしまうと、思い込みで先走り、普段は気づけるはずのことに気付けなくなります。普段の標本を見るペースを維持して、きちんと見る時間は取って、それから病態を考えた方がいいと思いました。② 今後に生かせるような勉強をしたいと思っていたのに、大半は試験のためだけの勉強でした。もっと早くに始めていれば、こんなことにはならなかったと反省しています。テキストに比重を置いた勉強をしてしまったため、これからの診療やスライドカンファレンスなどで実際の標本から疾患をきちんと学びたいと思っています。

試験後は、III型問題でミスをしてしまったために、結果が出るまでとても不安な二週間を過ごしました。今回合格できたのは、岡山大学の医局関連や広島の方、ご指導して下さる多くの先生方のおかげです。皆さんに与えていただいたことへの感謝を示す方法は、教わり学んだことを下へ伝えることだと思っています。10か月後や、さらにその後に受験する後輩達によ

り多くの事を伝えられるように、精進いたします。ありがとうございました。

病理専門医試験勉強と過ごした夏

九州大学病院 病理診断科・病理部 古賀 裕
私が病理医になろうと決めたのは39歳の春でした。10年間の外科医のキャリアを捨てることに迷いもありましたが、「HE標本ってきれい」「病理診断って難しいけど楽しい」という思いが勝りました。大学院生として4年間病理に在籍していましたが、診断は外科領域のみで剖検は真面目にしていませんでした。この苦手分野を克服するために、分からないことを調べて教えてもらう毎日でした。あっという間に3年が過ぎ、病理専門医試験を受ける今年がやってきました。

試験勉強は4月ごろからぼちぼち、ゴールデンウィーク後から本格的に、火がついたのは1か月前でした。過去問10年分、組織病理アトラスを基本に、彩の国の病理診断アトラス、乳腺病理カラーアトラス、子宮・卵巣腫瘍病理アトラス、皮膚病理診断ABC、1冊でわかる皮膚病理、各臓器の癌取扱い規約を適宜使用しました。まず、組織病理アトラスの中で研修要綱と過去問に記載された疾患の説明と組織像を見て、好発年齢・性別・部位など臨床的事項もチェックしました。次に、疾患名を見ても組織像が全く思い浮かばないものを重点的に復習しました。最後に、過去問を見てその組織像を再チェックしました。以上がIII型問題以外の対策として私が行ったことです。それと…、病理と臨床の増刊号である「病理診断クイックリファレンス」を試験前にみんなが見ていました。受験後に見てびっくり…、買って損はないですね。

III型問題、つまり剖検問題ですが、これが最も厄介であることを先輩から聞いていました。2時間30分も時間があるのに、「時間が足りない」という声多数。しかし、数年分の過去問を解いてみて理由がわかりました。とにかく、所見がてんこ盛りなのです。では何をすべきか？ 実際のCPCでもそうですが、「死因となる流れを外さない」ことが重要だと思います。過去問に目を移すと、「糖尿病」「SLEや強皮症など膠原病」「心筋梗塞」「悪性腫瘍」などの基礎疾患に「敗血症」を中心とした感染症を併発して亡くなるケースが多いですね。過去問は写真がないので、解いている感じがしません。私は病理学会の診断講習会ハンドアウト(2010~2014年)を使用して、臨床、マクロ、ミクロ別に全ての異常所見を書き出しました。次に重要臓器(心、肺、肝、腎、脳)に異常があるものをピックアップして、死因を考慮しつつ最初にフローチャートを作り、最後にもれないように主病変、副病変を記載しました。

高校受験、大学受験、医師国家試験、外科医専門医試験とさまざまな試験を受けてきましたが、今回の試験勉強が一番楽しいものでした。何となく診断していたことがいろいろとつなが

り、日々の業務に生きていくのです。やりたいことをやって報酬をいただけることは幸せですね。

末筆になりますが、九州大学形態機能病理学の小田義直教授をはじめとする教室や病理診断科の皆様、外勤先でご指導頂いた先生方、またティーチングファイルを作成して頂いた九州沖縄支部の多くの先生方、最後に妻と子供たち、本当にありがとうございました。

==私の恩師=====

福岡徳洲会病院 病理診断センター 居石 克夫
「私の恩師 田中健蔵先生」
福岡徳洲会病院 病理診断センター 居石 克夫
病理学のみならず私の人生の恩師である田中健蔵先生は、今年2月11日に誤嚥性肺炎のため、ご享年92で急逝されました。ここに改めて哀悼の意を表させていただきます。追悼文^{注1}は、日本病理学会会報に既に掲載して頂きましたので、本稿では田中先生の個人的な思い出を記憶の糸が解れるままに述べることにします。

先生に始めて接したのは医学部学生の病理学総論、各論の講義を受けた時ですから、既に50年程も前に遡ることになります。先生は教授に就任されて間もない時期であったこともあり、病理学の本試験を一度でパスすることは至難のこと、病理の試験は医化学、薬理学と並んで当時の医学生の怖れの的でした。学生は、それぞれの担当教授の頭文字から「恐怖の3T」と陰口を叩いたものでした。しかし殆どの学生が追・再試験で救ってもらいましたので、医学の学習に向けた厳しい姿勢を示しておられたのだと思っていました。医学部を昭和45年に卒業した私は、一度臨床教室に入局しましたが、基礎医学への憧れから、昭和47年、基礎系大学院生として田中門下生の一員にして頂きました。当時の田中教室は、住吉昭信助教授と渡邊照男講師が両脇を固めておられ、CPCとともに学会予行での硬軟併せての質問攻めは大学院生や駆け出しの病理医にとっては大変な関門で、しばしば壮絶な議論に発展したのを思い出します。総論-各論、臓器-個体病理、さらには人体-実験病理と極めて複合的で総合的な議論の大切さを実感した毎日でした。また、この時期から先生は超多忙な毎日をお過ごしでしたので、学会発表原稿の校閲を深夜の寝台列車ブルートレインの食堂車で受けたのも一度ならず、列車の揺れで書筆ままならなかった苦労を今でも思い出します。

先生の研究指導の根幹は、自主性、テーマと手法の新規性、正確な結果の把握と解釈の科学的妥当性、論理の一貫性を基盤にした「動的な病理学研究」の追求であったと思います。当時の流行であった免疫組織・細胞化学的検索の為の抗原精製やポリクロー、モノクロー抗体の作製、免疫電顕法やFACSscanの技術修得、また癌・非癌細胞の培養など、院生を含めた教室員の採算を度外視した申し出を快く許可して頂き、そのお陰で門下生は多くの新規研究を進めることが出来ました。

先生は、第2次大戦前後の日本の変革期を、さらには世界規模で教育・文化に大きな影響を与えた昭和40年頃から45年迄の学園紛争を経験され、多くの困難に正面から取り組み、乗り越えて来られました。学者、教育者として最後迄歩み続けて来られた先生のご遺旨を改めて思い起しつつ、門下生の一人として次の世代に少しでも先生の思いを引継ぐことが出来ればと心する毎日です。

注¹ 居石克夫：追悼文 日本病理学会名誉会員 故田中健蔵先生 日本病理学会会報：pathology.or.jp/news/whats/tanaka sensei-150408.html

==支部報告=====

--北海道支部-----

北海道支部編集委員 深澤 雄一郎

学術活動報告

第171回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が深澤雄一郎先生（市立札幌病院病理診断科）のお世話で2015年6月27日（土）、市立札幌病院講堂において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

番号 / 発表者（所属） / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名（主なもの） / 臨床診断 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断

15-01：立野正敏¹、東 正樹²、青木直子³、柳内 充⁴ / ¹釧路日赤病院病理診断科、²同婦人科、³旭川医科大学病理学講座、⁴市立札幌病院病理診断科 / 60歳代 / 女性 / 子宮 / 2種類の組織型が混在した内膜腫瘍 / Small cell neuroendocrine carcinoma + Endometrioid adenocarcinoma G1 (less than 1%) / Small cell neuroendocrine carcinoma + Endometrioid adenocarcinoma G1 (less than 1%)

15-02：立野正敏¹、東 正樹²、青木直子³、柳内 充⁴ / ¹釧路日赤病院病理診断科、²同婦人科、³旭川医科大学病理学講座、⁴市立札幌病院病理診断科 / 60歳代 / 女性 / 子宮 / 多彩な組織型が混在した子宮腫瘍 / Mullerian adenosarcoma with sarcomatous overgrowth / Mullerian adenosarcoma with sarcomatous overgrowth

15-03：池田 健、辻脇光洋 / 函館五稜郭病院パソロジーセンター / 40歳代 / 女性 / 子宮 / 子宮頸部と連続する巨大嚢胞性病変の一例 / Tumor-like endosalpingiosis / Tumor-like endosalpingiosis

15-04：八代真一、松田玲奈、伊藤真理子、村上洋平、鹿野 哲 / 勤医協中央病院病理科 / 60歳代 / 男性 / 肺 / 特異な組織像を呈した肺癌の一例 / Lymphoepithelial carcinoma / TTF-1陽性、EBERやLMP1の染色性などが問題

15-05：計良淑子¹、菊地慶介¹、山村満恵²、小川弥生³ / ¹帯広厚生病院病理診断科、²帯広厚生病院産婦人科、³NPO法人北海道腎病理センター / ジェネティックラボ病理診断部 / 20歳代 / 女性 / 子宮 / ネフローゼ症候群を合併した経産婦の子宮腫瘍の一例 / Placental-site trophoblastic tumor / Placental-site trophoblastic tumor

15-06：小川弥生¹、計良淑子²、菊地慶介²、山村満恵³、高木芳武¹、近藤信夫¹ / ¹NPO法人北海道腎病理センター / ジェネティックラボ病理診断部、²帯広厚生病院病理診断科、³帯広厚生病院産婦人科 / 20歳代 / 女性 / 腎 /

絨毛性疾患（疑い）で入院され、ネフローゼ症候群を認めた1例 / Capillary occlusive deposition, trophoblastic tumor-related / Capillary occlusive deposition, trophoblastic tumor-related

集会では、東京医科歯科大学包括病理 北川昌伸先生により「病理専門医制度における専門研修プログラム整備基準について」と題する臨時説明会が行われました。

また、NPO法人北海道腎病理センター 小川弥生先生により「腎生検病理診断における蛍光抗体法と電子顕微鏡の実践的活用」と題する教育講演がおこなわれました。

第172回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が深澤雄一郎先生（市立札幌病院病理診断科）のお世話で2015年9月12日（土）、市立札幌病院講堂において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

15-07：立野正敏¹、米原利栄²、田中 敏³、青木直子⁴、柳内 充⁵ / ¹釧路日赤病院病理診断科、²同婦人科、³札幌医科大学病理学講座、⁴旭川医科大学病理学講座、⁵市立札幌病院病理診断科 / 60歳代 / 女性 / 子宮 / ちよっと変わった子宮内膜腫瘍 / Giant cell carcinoma of ovary / Giant cell carcinoma of ovary

15-08：後藤田裕子、岩口佳史、市原 真、村岡俊二 / 札幌厚生病院病理診断科 / 40歳代 / 女性 / 子宮 / 子宮体部腫瘍の一例 / Mixed endometrial stromal and smooth muscle tumor / Mixed endometrial stromal and smooth muscle tumor

15-09：清水亜衣¹、岩崎沙理¹、涌井之雄²、池田 仁¹、鈴木 昭¹ / ¹KKR札幌医療センター 病理診断科、²KKR札幌医療センター 産婦人科 / 40歳代 / 女性 / 子宮 / 特異な肉眼、組織形態を呈した子宮腫瘍 / Cotyledonoid dissecting leiomyoma with adenomyosis / Cotyledonoid dissecting leiomyoma with adenomyosis

15-10：柳内 充、辻 隆裕、石井保志、秋元真祐子、深澤雄一郎 / 市立札幌病院 病理診断科 / 60歳代 / 女性 / 卵巣 / 困る卵巣腫瘍 / Endometrioid adenocarcinoma / Endometrioid adenocarcinoma

15-11：秋元真祐子、辻 隆裕、柳内 充、石井保志、深澤雄一郎 / 市立札幌病院 病理診断科 / 80歳代 / 女性 / 卵巣 / 診断に苦慮しているAFP産生付属器腫瘍 / Poorly differentiated serous adenocarcinoma with AFP-producing carcinoma and carcinosarcoma components, probably arising in the right fallopian tube / Poorly differentiated serous adenocarcinoma with AFP-producing carcinoma and carcinosarcoma components, probably arising in the right fallopian tube

15-12：辻 隆裕、柳内 充、石井保志、秋元真祐子、深澤雄一郎 / 市立札幌病院 病理診断科 / 50歳代 / 女性 / 卵巣 / 腹膜インプラントを伴う卵巣漿液性腫瘍の一例 / #1 Serous adenocarcinoma of the right ovary, G1, pT3b, right adnexectomy #2 Invasive and non-invasive implants, omentectomy / #1 Serous adenocarcinoma of the right ovary, G1, pT3b, right adnexectomy #2 Invasive and non-invasive implants, omentectomy

集会では、湘南鎌倉総合病院病理診断部 手島伸一先生により「卵巣腫瘍—新WHO分類の解説と批判」と題する特別講演が行われました。手島先生は、立派なハンドアウトを会員に分与して下さり、熱のこもった講演会になりました。

第9回 Lymphoma Clinico-Pathology Conference が、2015年8月22日(土)、北海道大学・医学部学友会館において行われました。

テーマは「Angioimmunoblastic T-cell lymphoma」でした。

筑波大学血液内科 坂田麻美子先生により「T細胞リンパ腫における RHOA 変異」と題する特別講演が行われました。

--- 東北支部 ---

東北支部編集委員 長谷川 剛

第81回日本病理学会東北支部学術集会在、7月4,5日(土、日)の2日間、弘前大学大学院医学研究科病理生命科学講座 鬼島宏教授を集会会長として、弘前大学医学部基礎大講堂で行われた。特別企画で、清水道生先生から日本専門医機構の定める「新たな病理専門医」についての情報提供があった他、九州大学 小田義直先生の「骨腫瘍病理診断の基本」、富山大学 井村穰二先生の「消化器疾患における外科病理学/分子病理学の最近の話題」の特別講演があり、下記の一般演題(20題)・学生発表(1題)とともに充実した学術集会であった。また、一日目終了後、情報交換会がホテルナクアシティ弘前で行われ、津軽三味線のライブを楽しみながらの懇親の場となった。

【一般演題】

1. 刑部 光正, 他 山形県立中央病院病理診断科
子宮体部の嚢胞性腫瘍の1例 / Cystic adenomyoma with tubal metaplasia
2. 渋谷 里絵, 他 仙台市立病院病理診断科
子宮腫瘍の1例 / Endometrioid adenocarcinoma
3. 日下部 崇 寿泉堂総合病院病理診断科
子宮筋腫に合併した特異な内膜病変 / Ichthyosis uteri (子宮魚鱗病)
4. 星 サユリ, 他 栃木県立がんセンター病理診断科
卵巣腫瘍の1例 / Large cell neuroendocrine carcinoma of the ovary
5. 長沼 廣, 他 仙台市立病院病理診断科
甲状腺腫瘍の1例 ― 甲状腺の切り出しについて ― / Papillary carcinoma
6. 坂元 和宏, 他 大崎市民病院病理診断科
低血糖発作から遷延性意識障害をきたした緩徐進行1型糖尿病の1例 / 膵島腫瘍 NET
7. 板倉 裕子, 他 石巻赤十字病院病理部
肺癌加療中に肺出血で死亡した1例 / Choriocarcinoma ex lung cancer (pleomorphic carcinoma)
8. 江村 巖, 他 長岡赤十字病院病理診断部
上腸間膜動脈血栓症が疑われた1例 / 胃癌術後の動脈壁の変化
9. 板橋 智映子, 他 弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座
舌下腺腫瘍の1例 / Clear cell carcinoma, NOS (basaloid-like variant)
10. 木村 伯子, 他 国立病院機構函館病院病理診断科
ポリープ状食道腫瘍 / Carcinosarcoma
11. 石田 和之, 他 岩手医科大学病理診断学講座
臍帯血幹細胞移植後に消化管生検を行った1例 / Intestinal transplantation associated microangiopathy (i-TAM) + CMV infection
12. 菅原 歩, 他 みやぎ県南中核病院
十二指腸上部の初回粘膜生検で por, 2 回目生検で NET と診断した

GIST 手術例 / Gastrointestinal stromal tumor

13. 山崎 有人, 他 東北大学病院病理部
肝嚢胞の1例 / Mucinous cystic neoplasm
 14. 久保田 文恵, 他 東北労災病院病理診断科
皮膚腫瘍の1例 / Porocarcinoma arising in poroma
 15. 岡 直美, 他 国立病院機構仙台医療センター病理診断科
多発性出血性脳転移をきたした原発不明腫瘍の1例 / Anaplastic (Undifferentiated) carcinoma of the thyroid
 16. 工藤 和洋, 他 弘前大学医学部分子病態病理学講座
大腿腫瘍の1例 / Clear cell sarcoma
 17. 須藤 文, 他 山形大学医学部病理診断学講座
後腹膜腫瘍の1例 / Adrenocortical carcinoma
 18. 加藤 哲子, 他 弘前大学大学院医学研究科病理診断学講座
チアノーゼ性先天性心疾患に伴った後腹膜腫瘍 / Pheochromocytoma & Paraganglioma
 19. 廣嶋 優子, 他 秋田大学医学部附属病院病理診断科
骨盤内腫瘍の1例 / High-grade Endometrial stromal sarcoma
 20. 齊藤 涼子, 他 東北大学大学院医学研究科病理診断学分野
肋骨腫瘍の1例 / Post traumatic fibrous lesion
- 注) 一般演題は、筆頭演者、所属および演題名 / 演者診断の順
- 【学生発表】
中尾 祐大, 他 岩手医科大学歯学部3学年
「粘膜部の類表皮嚢胞の組織発生に関する検討 ― 舌癌術後に生じた類表皮嚢胞の症例解析」

日本病理学会東北支部『第8回病理夏の学校』が、山形大学医学部病理診断学講座 山川光徳教授を実行委員長として、8月29,30日(土、日)の2日間行われた。2002年(13年前)に同じく山形蔵王温泉に始まったこの企画は、医学生・研修医を対象に病理の魅力と重要性を伝えることが目的で、学生39名、研修医10名、大学院生・教官28名の計77名の参加があった。種々の講演やCPCなどをプログラムとして行ったが、大変盛況で(飲み会を中心に?)、学生からは「また参加したい」や「今後の学習意欲向上につながる」などの感想が聞かれた。

--- 関東支部 ---

第68回日本病理学会関東支部学術集会報告

世話人：山梨大学医学部人体病理学講座 病理部(病理診断科) 加藤 良平

平成27年9月12日(土曜日)、山梨大学甲府東キャンパス(工学部) A2号館講堂において支部学術集会在が開催され、91名が参加されました。今回は「多くの症例から診断学を学ぶ」ことを基本に11症例を検討しましたが、それぞれにつき発表、指定発言、アンサーパッドを用いた会場の意見供覧、討論の後、専門領域のコメンテーターによる説明がなされ大変有意義な学術集会になったものと思われます。また、北川昌伸先生からは「新しい専門医制度における資格更新および専門研修プログラムの作成準備について」と題し、これからの専門医制度について

でのわかりやすいご説明を頂きました。以下にプログラムを記します。

座長：小山 敏雄（山梨県立中央病院 病理診断科）

1. 繰り返された外傷後 15 年経過した左咬筋内の異所性骨組織
発表者：横山宗伯，他（東京警察病院 病理診断科）
指定発言：大石直輝（山梨大学医学部 人体病理学）
コメンテーター：山口岳彦（獨協医科大学越谷病院 病理診断科）
2. 膀胱腫瘍の 1 例
発表者：鈴木理樹，他（千葉大学大学院医学研究院 診断病理学）
指定発言：久保田直人（慶應義塾大学医学部 病理学）
コメンテーター：長嶋洋治（東京女子医科大学病院 病理診断科）
3. 左腎部軟部腫瘍の一例
発表者：吉岡恵美（神奈川県立がんセンター 病理診断科）
指定発言：高松学（がん研究会がん研究所 病理部）
コメンテーター：元井亨（都立駒込病院 病理科）

座長：大橋健一（横浜市立大学医学部 病態病理学）

4. 質量分析により診断に至ったアミロイドーシスの 1 剖検例
発表者：日向宗利，他（東京大学大学院医学系研究科 人体病理学）
指定発言：河西一成（山梨大学医学部 人体病理学）
コメンテーター：大橋隆治（日本医科大学付属病院 病理診断科）
5. 嘔吐を契機に見られた乳児小脳腫瘍の 1 例
発表者：西巻はるな，他（日本大学医学部 病態病理学系病理学分野）
指定発言：仲田典広（北里大学医学部 病理学）
コメンテーター：横尾英明（群馬大学大学院医学研究科 病態病理学）
6. 腎腫瘍の 1 例
発表者：澤田杏理，他（東京女子医科大学病院 病理診断科）
指定発言：萬昂士（東京慈恵会医科大学病院 病理部）
コメンテーター：中谷行雄（千葉大学大学院医学研究院 診断病理学）

座長：元井紀子（がん研究会がん研究所病理部）

7. 外性器に生じた悪性腫瘍の 2 例
発表者：松本暢彦，他（東京医科大学茨城医療センター 病理診断科）
指定発言：河野貴子（自衛隊横須賀病院）
コメンテーター：泉美貴（東京医科大学 医学教育学）
8. 甲状腺腫瘍の 2 例
発表者：日野るみ，他（がん研究会がん研究所 病理部）
指定発言：原田直（千葉大学大学院医学研究院 診断病理学）
コメンテーター：菅間博（杏林大学医学部 病理学）

座長：清水道生（博慈会記念総合病院 病理診断センター）

9. 後腹膜腫瘍の 1 例
発表者：富田さくら，他（東海大学医学部 基盤診療学系 病理診断学）
指定発言：林 玲匡（東京大学大学院医学系研究科 人体病理学）
コメンテーター：中村直哉（東海大学医学部基盤診療学系 病理診断学）
10. 高齢男性の 1 剖検例
発表者：磯村杏耶，他（杏林大学医学部 病理学）
指定発言：遠藤陽子（日本医科大学付属病院 病理診断科）
コメンテーター：宇都健太（東京女子医科大学大学院 病理学第 2）
11. 小児唾液腺腫瘍の 1 例

発表者：井上朋大，他（山梨大学医学部 人体病理学）

指定発言：川井田みほ（慶應義塾大学医学部 病理学）

コメンテーター：森永正二郎（北里大学北里研究所病院 病理診断科）

【専門医制度説明会】

「新しい専門医制度における資格更新および専門研修プログラムの作成準備について」

講師：北川昌伸（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科包括病理学分野）

-- 中部支部 -----

中部支部編集委員 浦野 誠

第 75 回日本病理学会中部支部交見会

2015 年 7 月 4 日（土），5 日（日）

会場：信州大学

世話人：慈泉会相澤病院 病理診断科 樋口佳代子先生

参加人数：156 名

【イブニングセミナー】

〈講演〉 ALK 陽性肺癌の最新知見 — ALK 検査がもたらすもの —

新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸器内科 渡部 聡先生

座長：信州大学院医学系研究科分子病理学 中山 淳先生

【症例検討】

1338 慈泉会相澤病院病理診断科 小豆畑康児

80 代 女性 肺 Ciliated muconodular papillary tumor 胸膜下に発生した、絨毛と粘液を有する乳頭状腫瘍。WHO 分類に未記載の組織型で、papilloma との異同が問題であった。

1339 磐田市立総合病院病理診断科 大西一平

50 代後半 女性 肺 ALK-rearranged lung adenocarcinoma with partially squamous differentiation ALK 陽性で lepidic growth を主体とするまれな腺癌例。腺扁平上皮癌、混合型腺癌等の投票が多かった。扁平上皮成分を伴った部分でも EML4-ALK 融合が示された。

1340 名古屋大学医学部附属病院病理部 露木悠太

4 歳 女性 肺 Pleuropulmonary blastoma Type III 充実型で軟骨形成が目立つ症例であった。投票結果は一致していた。

1341 佐久総合病院佐久医療センター臨床病理部 青柳大樹

70 代 女性 肺動脈 Pulmonary artery intimal sarcoma

未分化肉腫様像を呈した肺動脈血管内膜肉腫症例。投票結果は一致していた。

1342 一宮市立市民病院病理診断科 中島広聖

50 代前半 女性 子宮 Epithelioid trophoblastic tumor (ETT)

栄養膜細胞に由来する腫瘍の分化について詳細な説明がなされた。ETT と PSTT (placental site trophoblastic tumor) の鑑別に有用な p63, Ki-67 染色等を用いた診断アルゴリズムが示された。

1343 藤田保健衛生大学医学部病理診断科 中川 満

10 代後半 女性 卵巣 Signet ring stromal tumor

まれな性索間質性腫瘍例。β-catenin 遺伝子変異が示され、Microcystic stromal tumor との異同、鑑別が討論された。

1344 木沢記念病院病理診断科 杉山誠治

80 代前半 男性 皮膚 Indeterminate cell histiocytosis

投票がわかれた症例であった。皮膚所見は典型的で Langerin 陰性からこの診断に至った。鑑別に Hashimoto-Pritzker 病が挙げられた。従来高齢者

の Langerhans cell histiocytosis とされてきた症例が本疾患に相当する可能性が示された。

1345 名古屋第一赤十字病院病理部 安藤良太

80代 女性 皮膚 Malignant eccrine spiradenoma

再発性の頭皮腫瘍。一見良性様の所見を示す eccrine spiradenoma の組織構築を残しながらも dual cell population のくずれがみられ、核分裂像を伴っていた。

1346 金沢大学附属病院病理部 池田博子

30代 女性 脳 Epithelioid glioblastoma.

画像診断では extra-axial の腫瘍が考慮されていたが S-100, olig2 陽性で BRAF V600E 遺伝子変異が示された。投票で多かった meningioma との鑑別、発生母地について討論がなされた。

1347 松波総合病院病理診断科 濱保英樹

70代前半 女性 軟部 Insulin injection related cutaneous amyloidosis.

糖尿病患者のインスリン注射部位に発生したアミロイド結節。投票結果は一致していた。

1348 岐阜大学附属病院病理部 武内勝章

10代前半 男性 軟部 Myxoid synovial sarcoma with ossification.

粘液変性と類骨形成を伴う腫瘍で、extraskeletal osteosarcoma, myxoid chondrosarcoma の投票が多かった。遺伝子解析の結果、SS18-SSX1 と EWSR1-NR4A3 の2種類の融合遺伝子が示された。

1349 信州大学医学部附属病院臨床検査部 佐藤 碧

40代 男性 腎 Synovial sarcoma, poorly differentiated.

後腹膜発生と考えられた症例。FISH で SYT 遺伝子の分離シグナルが観察された。低分化型滑膜肉腫と単相線維型滑膜肉腫との鑑別について討論がなされた。

1350 厚生連高岡病院 野本一博

60代後半 男性 十二指腸 Lanthanum carbonate deposition

血液透析患者に投与された炭酸ランタンの消化管沈着症。組織球体内の結晶状構造が特徴的であり、CT 画像が診断に有用であることが示された。知っておくべき新しい薬剤起因性病態と思われた。

1351 公立陶生病院病理診断科 滝 哲郎

60代 男性 十二指腸 Myeloid sarcoma

骨髄肉腫と悪性リンパ腫とで投票がわかれた。CBFβ の遺伝子転座が示された。骨髄穿刺のタイミングについて討論がなされた。

1352 市立砺波総合病院病理診断科 奥野のり子

60代前半 男性 大腸 Undifferentiated carcinoma.

悪性黒色腫とする投票が多かった。決め手となる免疫染色所見や腫瘍特異的な遺伝子変異が見いだされず、診断が難しい症例であった。電顕でデスモゾームの存在が示唆された。

1353 三重大学医学部附属病院病理部 藤原雅也

60代 女性 肝臓 Bile duct adenoma with oncocytic feature.

臨床診断は転移性肝腫瘍であったが、組織像は上皮の好酸性変化を伴った極めてまれな胆管腺腫の所見であった。良性とする意見が多かった。

1354 小牧市民病院病理診断科 桑原恭子

60代 女性 膵臓 Non-functioning pancreatic endocrine tumor, G1.

高グルカゴン血症をきたし、A細胞への分化を示す多発性膵内分泌腫瘍例。成人ではまれな nesidioblastosis を背景にして生じた病変であった。

1355 富山県立中央病院病理診断科 内山明央

70代 女性 脾臓 EBV-associated IPT-like follicular dendritic cell tumor.

炎症性偽腫瘍、過誤腫の投票が多かった。炎症が高度な場合、腫瘍細胞の同定が困難な点に注意が必要で、EBV-positive IPT との鑑別点が示された。

1356 松本歯科大学口腔病理学講座 落合隆永

40代後半 男性 口腔 Glandular odontogenic cyst.

粘液上皮細胞を含む特徴的な壁構造からなる嚢胞性病変。含菌性嚢胞、顎骨中心性粘表皮癌等との鑑別点が示された。投票結果は一致していた。

1357 刈谷豊田総合病院病理診断科 佐藤俊之

10代前半 女性 甲状腺 Papillary carcinoma, diffuse sclerosing variant.

若年者のまれな乳頭癌亜型例で扁平上皮成分を伴っていた。リンパ管侵襲が顕著であった。投票結果は一致していた。

1358 福井大学医学部附属病院病理診断科 竹内 文

60代後半 女性 甲状腺 Undifferentiated carcinoma, rhabdoid variant.

扁平上皮成分、ラブドイド細胞が出現した未分化癌例。術後腎転移が確認された。

1359 静岡がんセンター病理診断科 伊藤以知郎

70代 女性 卵巣 Malignant struma ovarii with unusual histology

管状構造部分と充実性増殖部分がみられ、卵巣甲状腺腫と high grade な類内膜腺癌との鑑別が討論された。TTF-1, thyroglobulin, ER 陽性像の解釈が問題となった。

【中部支部学術奨励賞受賞式】

学術奨励賞 カテゴリー A (専門医試験合格前)

奥野 のり子先生 (市立砺波総合病院)

学術奨励優秀発表賞

岩越朱里先生 (名古屋医療センター)

谷岡書彦先生 (磐田市立総合病院)

「夏の学校」2015 in 福井

2015年8月29日(土)、30日(日)福井県若狭みかた

きらら温泉 水月花

世話人: 小林基弘先生 (福井大学医学部腫瘍病理学)

内木宏延先生 (福井大学医学部分子病理学)

学生22名, 研修医23名, 一般19名, 講師5名, 計69名の参加を得て盛況に行われました。

次回学術集会

第76回日本病理学会中部支部交歓会

平成27年12月19日(土)

会場: 愛知学院大学

世話人: 前田初彦先生 (愛知学院大学口腔病理学)

第19回日本病理学会中部支部スライドセミナー

平成28年3月12日(土)

世話人: 谷岡書彦先生 (磐田市立総合病院)

テーマ「骨髄」

東海病理医会 検討症例報告

第312回

(平成27年5月16日参加者21名 於: 藤田保健衛生大学)

症例番号/病院名/病理医/年齢(歳代)/性/臓器/臨床診断/病理組織学的診断

4820/藤田保健衛生大学/黒田 誠/30/女/骨盤内/大腸癌/Pelvic endometriosis and fallopian tube penetrating through colonic wall

- 4821 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 40 / 女 / 腎 / 腎癌 / Oncocytoma
 4822 / 北里クリニック / 桐山論和 / 30 / 女 / 皮下 / 脂肪腫疑い / Neurothekeoma
 4823 / 坂文種報徳會病院 / 稲田健一 / 20 / 男 / 鼻前庭 / 鼻前庭腫瘍 / Interdigitating cell sarcoma
 4824 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 60 / 男 / 鼻腔 / 鼻腔腫瘍 / Malignant melanoma
 4825 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 80 / 女 / 胆管 / 胆管癌疑い / Metastatic lung cancer
 4826 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 40 / 男 / 肺 / 過敏性肺臓炎 / Pneumocystis pneumonia
 4827 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 40 / 女 / 子宮 / 子宮筋腫 / Pneumocystis pneumonia
 4828 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 60 / 男 / 十二指腸 / 十二指腸癌 / Duodenal adenocarcinoma

第 313 回

(平成 27 年 6 月 20 日参加者 20 名 於: 藤田保健衛生大学)

- 4829 / 津島市民病院 / 杉田好彦 / 90 / 女 / 歯肉 / 歯肉癌 / Proliferative verrucous leukoplakia
 4830 / 新城市民病院 / 黒田 誠 / 70 / 男 / 膀胱 / 憩室由来癌 / Urothelial carcinoma arising from diverticulum
 4831 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 30 / 女 / 子宮 / 子宮頸癌 / Adenosquamous carcinoma
 4832 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 40 / 女 / 乳腺 / 乳癌 / Secretory carcinoma
 4833 / 静岡厚生病院 / 浦野 誠 / 70 / 男 / 睪 / IPMN / Serous cystadenoma
 4834 / 静岡赤十字病院 / 浦野 誠 / 70 / 女 / 外陰 / 外陰腫瘍 / Cellular Angiofibroma
 4835 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 60 / 男 / 皮膚 / オスラー結節 / Oslar nodule
 4836 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 60 / 女 / 腎 / 腎腫瘍 / Renal hybrid oncocytic / chromophobe tumor
 4837 / 藤田保健衛生大学 / 岡部 麻子 / 60 / 男 / 腎 / 腎腫瘍 / Renal hybrid oncocytic / chromophobe tumor
 4838 / 静岡赤十字病院 / 岡部 麻子 / 80 / 男 / 十二指腸 / 十二指腸憩室 / Diverticulum
 4839 / 諏訪中央病院 / 浅野 功治 / 40 / 女 / 結腸 / S 状結腸穿孔 / Perforation
 4840 / 木沢記念病院 / 杉山 誠治 / 40 / 男 / 肺 / 後腹膜腫瘍 / Poorly differentiated synovial sarcoma
 4841 / 木沢記念病院 / 山田 鉄也 / 60 / 女 / 甲状腺 / 頸部腫瘍 / Follicular tumor
 4842 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田 哲也 / 30 / 女 / 脳 / 脳腫瘍の疑い / Anaplastic oligodendroglioma
 4843 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田 哲也 / 70 / 男 / 胃 / 胃粘膜腫瘍 / Schwannoma

第 314 回

(平成 27 年 7 月 11 日参加者 18 名 於: 藤田保健衛生大学) 4844 / トヨタ記念病院 / 北川 論 / 70 / 男 / 腎 / 腎腫瘍 / Oncocytoma

- 4845 / 静岡厚生病院 / 浦野 誠 / 7 / 女 / 皮膚皮膚腫瘍 / Spitz nevus
 4846 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 50 / 女 / 乳腺 / 乳癌 / Adenomyoepithelioma with carcinoma
 4847 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 60 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Adult granulosa cell tumor

- 4848 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田 哲也 / 70 / 女 / 睪 / 睪腫瘍 / Invasive ductal carcinoma associated with IgG-4 related sclerosis
 4849 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田 哲也 / 60 / 男 / 肺 / 肺癌疑い / Crystal storing histiocytosis
 4850 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田 哲也 / 60 / 女 / 肺 / 胸壁腫瘍 / Malignant phyllodes tumor
 4851 / 岐阜大学医学部附属病院 / 小林 一博 / 6 / 女 / 甲状腺 / 甲状腺癌 / Diffuse sclerosing variant of papillary carcinoma
 4852 / 小牧市民病院 / 桑原 栞子 / 70 / 男 / 胃 / 胃粘膜下腫瘍 / Inverted hamartomatous polyp with adenoma
 4853 / 小牧市民病院 / 桑原 栞子 / 70 / 男 / 下咽頭 / 下咽頭癌 / Spindle cell carcinoma

近畿支部

近畿支部編集委員 桑江 優子

I. 活動報告

8 月 22 日(土) 夏期病理セミナー『夏の学校』が下記の内容で開催され、近畿内外から 44 名の前期研修医、学生の方の御参加を頂きました。

於: 大阪大学吹田キャンパス 最先端医療イノベーションセンター 1F

— 病理って? 病理医って? 病理研究って? —

～病理に興味のある医学生・研修医のみなさんを歓迎します～

1. 国試対策 — 病理編 — 研修医の先生も覚えてる?

大阪大学 田原紳一郎先生, 松井崇浩先生

2. 病理って何? どんなことするの?

兵庫医科大学 清水重喜先生

3. ある病理医の 1 日

市立豊中病院 田村裕美先生

4. 研究にも興味がある君へ

神戸大学 粕雄一朗先生

II. 今後の活動予定

1. 日本病理学会近畿支部第 70 回学術集会

9 月 26 日(土)

於: 関西医科大学枚方学舎

世話人: 関西医科大学 螺良 愛郎先生

モデレーター: 和歌山県立医科大学 村田晋一先生

テーマ: 泌尿器生殖器腫瘍

症例検討

座長: 三輪 秀明先生 (大阪労災病院 病理診断科)

865 腎腫瘍の一例

松崎 直美先生, 他 (財団法人田附興風会医学研究所北野病院 病理診断科, 他)

866 稀な腎腫瘍の一例

大谷 恭子先生, 他 (神戸大学医学部附属病院 病理診断科)

座長: 上田 佳世先生 (淀川キリスト教病院 病理診断科)

867 多彩な多発病変を認めた透析腎癌の1例

市川 千宙先生, 他(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科, 他)

868 前立腺腫瘍の1例

前田 紘奈先生, 他(京都大学医学部附属病院 病理診断科, 他)

座長: 今井 幸弘先生(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科)

869 鼻腔腫瘍の1例

城光寺 龍先生, 他(日生病院 病理診断科, 他)

870 上顎骨腫瘍の一例

廣瀬 勝俊先生, 他(大阪大学大学院歯学系研究科 口腔病理教室, 他)

871 小脳腫瘍の1例

福島 裕子先生, 他(大阪市立総合医療センター病理診断科, 他)

特別講演

『コンサルテーション症例から見た精巣腫瘍の病理診断の問題点』

森永 正二郎先生(北里研究所病院 病理診断科)

病理講習会: 『泌尿器腫瘍の診断クルー』

1. 前立腺癌の新しいグリソン分類 ~分類のポイント~

内田 克典先生(三重大学医学系研究科 腫瘍病理学)

2. 尿路上皮癌 ~上皮内癌を中心とした鑑別診断法~

南口早智子先生(京都大学医学部附属病院 病理診断科)

3. 新しい腎癌の組織分類 ~鑑別のポイント~

長嶋 洋治先生(東京女子医科大学病院 病理診断科)

2. 第71回学術集会(2015年12月12日)

開催場所: 大阪市立大学

テーマ: 神経内分泌腫瘍

3. 第72回学術集会(2016年2月6日)

開催場所: 大阪市立大学

テーマ: 肺疾患

-- 中国四国支部 -----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

「第16回病理学夏の学校」開催報告

第16回病理学夏の学校 世話人 並河 徹

島根大学医学部 病態病理学

8月23, 24日の両日, 松江市玉造温泉町の華水苑皆実にて第16回日本病理学会中四国支部病理夏の学校を開催しました。学生65名と教員, 病理医37名にご参加いただきました。

主な学術イベントとして, 各大学から出題していただいた症例をもとに「学生スライドカンファレンス」を行いました。通常のスラカンと同様, あらかじめ配布した標本をみていただき投票をしていただき, 当日は出題校に症例の解説を, 出題校以外で指定した2校にディスカッションをお願いしました。各大学の紹介を織り交ぜて大変高度な症例検討をしていただけた

と思います。症例によっては学生にとってかなり難しいものもありましたが, 日頃病理医がどんな形で症例検討をしているか, その一端を経験してもらえたものと思います。

その他に, 東京医科大学の泉美貴先生, 広島市民病院の守都敏晃先生に「病理医として生きる—先輩医師が語るその魅力と醍醐味—」のタイトルで, 病理医の仕事, 病理診断の醍醐味について両先生の豊富なご経験に基づいてお話をいただきました。ユーモアと情熱のこもったお話が学生の皆さんに刺激になったのではないかと思います。

また, 最近話題になっております, 病理医を主人公とする漫画「フラジャイル」の原作者, 草水敏氏に, なぜ病理医を主人公とする漫画の原作を書くことになったのか, その理由についてご講演いただきました。「病理医は気心の知れた少人数のintimateな集団内で, そのメンバーに信頼されて仕事することに喜びを見いだすヒトである」という指摘には, なるほどと頷かされるところがありました。

もうひとつの講演は, 筑波大学の加藤光保先生に講師をお願いしました。がんの組織構築(の乱れ)や浸潤のメカニズムについて, オリジナリティに富んだ研究を続けておられます。今回は学生の仕事が重要な発見の鍵となった研究についてお話いただき, 基礎研究の醍醐味についてお話をいただきました。

23日の夜は, 皆揃っての夕食とその後の2次会, 3次会で, 大学や学生, 教員の垣根を越えて親睦を深めることができました。草水さん, 泉先生, 加藤先生にもご参加いただき, 遅くまで話に花が咲いたようです。

最後の投票で, 学生スラカンの優秀発表賞には徳島大学と鳥取大学, 優秀質問賞には広島大学と岡山大学, 自己紹介が面白かった大学には徳島大学が選ばれました。また, 恒例のmost impressive studentは, 第1位に広島大学の本間りりのさん, 第2位に鳥取大学の野内直子さんと愛媛大学の森川神之祐くんが選ばれました。

最後に, ご支援をいただいた病理学会, 病院や企業の皆さま, ご参加いただいた学生のみなさん, 教員, 病理医の先生方に厚く御礼申し上げます。また, 学生スラカンを計画, 実施してくださった島根大学病態病理学 天野知香先生, スラカンの症例をバーチャルスライドに変換し公開していただいた, 山口大学分子病理学の小賀厚徳先生, お忙しい中夏の学校のためにお出でいただいた, 泉先生, 加藤先生, 草水さん, それに, 事務方として夏の学校を支えてくださった, 島根大学器官病理学 南木千春さん, 和田博子さん, 同病態病理学 大原淑子さん, 三島聡子さんに, 深く感謝申し上げます。

第16回病理学夏の学校 プログラム

1日目 8/23(日)

12:30-13:30 受付

13:30-13:45 開会・オリエンテーション

13:45-15:25 学生スラカン part1
 15:25-15:40 コーヒーブレイク
 15:40-16:40 講演とディスカッション
 「病理医として生きる — 先輩医師が語るその魅力と醍醐味 —」
 東京医科大学医学教育学 泉 美貴
 広島市民病院病理診断科 守都 敏晃
 <座長 鳥根大学医学部器官病理学 荒木 亜寿香>
 16:45-17:45 講演
 「なぜ病理医を主人公とした漫画『フラジャイル』の原作を書くに至ったか」
 漫画「フラジャイル」原作者 草水 敏
 <座長 鳥根大学医学部器官病理学 丸山 理留敬>
 17:45-19:00 チェックイン, 入浴
 19:00-21:00 夕食・懇親会
 2日目 8/24 (月)
 7:00- 9:00 チェックアウト, 朝食
 9:00-10:40 学生スラカン part 2
 10:40-10:55 コーヒーブレイク
 10:55-11:55 講演
 「がんとはどのような病気か? — 病理学研究の醍醐味 —」
 筑波大学実験病理学 加藤 光保
 <座長 広島大学大学院分子病理学 安井 弥>
 12:00-12:30 表彰式, 閉

B. 開催予定

1. 第118回学術集会

開催日: 平成27年12月5日(土)
 場 所: 岡山大学医学部
 世話人: 岡山市立市民病院 小田和歌子先生

C. 県単位の研究会などの開催報告

名 称: 第59回山陰病理集談会
 日 時: 平成27年7月18日(土)
 会 場: パルメイト出雲
 世話人: 鳥根県立中央病院 病理組織診断科 大沼秀行先生
 出席者 24名

演題番号 演題名/診断名/所属施設/演者名

- 781 右側頭葉腫瘍 / Dysembryoplastic neuroepithelial tumor / 岡山大学 / 太田陽子 他
 782 鼻腔腫瘍 / Olfactory neuroblastoma / 倉敷中央病院 / 板倉淳哉 他
 783 皮膚病変 / MALT lymphoma / 益田地域医療センター医師会病院 / 原田孝之
 784 リンパ節病変 / Mantle cell lymphoma / 浜田医療センター / 長崎真琴 他
 785 大腿部皮膚腫瘍 / Porocarcinoma / 鳥根県立中央病院 / 徳安祐輔 他

- 786 腋窩腫瘍 / Alveolar soft part sarcoma / 鳥根県立中央病院 / 山本智彦 他
 787 腎腫瘍 / Angiomyolipoma / 鳥取市立病院 / 小林計太
 788 肺腫瘍 / Adenosquamous carcinoma and aspergilloma / 鳥取大学医学部附属病院 / 堀江 靖 他
 789 前立腺尿道粘膜下腫瘍 / Pseudosarcomatous fibromyxoid tumor / 鳥根大学 / 荒木亜寿香 他
 790 腎腫瘍 / Juxtaglomerular cell tumor / 鳥根大学 / 天野知香 他
 791 肺腫瘍 / ALK-positive lung cancer / 鳥根県立中央病院 / 大沼秀行 他
 792 頭蓋骨腫瘍 / Langerhans cell histiocytosis / 鳥根県立中央病院 / 大沼秀行 他

-- 九州・沖縄支部 -----

九州・沖縄支部編集委員 大石 善丈

第346回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時: 平成27年7月4日
 場所: (JCHO: ジェイコー) 九州病院
 世話人: (JCHO: ジェイコー) 九州病院 臨床病理検査科部長 笹栗 毅和先生
 参加人数: 128名

同日九州沖縄スライドコンファレンスに先立ち東京医科歯科の北川先生から「病理専門医制度における専門研修プログラム整備基準について」説明がなされた。

冒頭に第88回九州病理集談会も開催された。

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名
 座長: 大西紘二 (熊本大学細胞病理学)

1. 部 由貴 / 大分大学診断病理 / 85 / 女性 / 下眼瞼 / 下眼瞼腫瘍 / Sebaceous carcinoma in situ / Sebaceous carcinoma in situ / Sebaceous carcinoma
2. 山崎真希子 / 佐賀大学診断病理 / 39 / 男性 / 上咽頭 / 上咽頭腫瘍 / Synovial sarcoma / Synovial sarcoma / Synovial sarcoma
3. 矢吹 慶 / 産業医科大学第1病棟 / 73 / 女性 / 唾液腺腫瘍 / 唾液腺腫瘍 / Sclerosing mucoepidermoid carcinoma (low grade) / Sclerosing mucoepidermoid carcinoma (low grade) / mucoepidermoid carcinoma
 座長: 野口紘嗣 (産業医科大学第二病理学)
4. 田中弘之 / 宮崎大学再生病態学 / 64 / 女性 / 右肺 / 右肺腫瘍 / Adenocarcinoma of non-terminal respiratory unit origin / Adenocarcinoma of non-terminal respiratory unit origin / Adenocarcinoma
5. 橋迫美貴子 / 長崎大学病院病理診断科 / 41 / 女性 / 肺 / 肺病変 / Cellular NSIP with subacute change. Etiology: DM-related interstitial lung disease2. Lymphangioliomyomatosis (LAM) / Cellular NSIP with subacute change. Etiology: DM-related interstitial lung disease3. Lymphangioliomyomatosis (LAM) / Lymphocytic interstitial pneumonia
6. 鳥尾義也 / 県立宮崎病院病理診断科 / 60代 / 女性 / 縦隔 / 縦隔腫瘍 / Aorticopulmonary paraganglioma / Aorticopulmonary paraganglioma / paraganglioma
 座長: 草野弘宣 (久留米大学病理学)
7. 鳥松一秀 / 大牟田市立病院 / 57 / 男性 / 腸間膜 / 腸間膜腫瘍 / Castleman

disease, hyaline vascular type / Castleman disease, hyaline vascular type / Castleman disease

8. 持留直希 / 九州大学形態機能病理学 / 62 / 女性 / 睪 / 睪腫瘍 / Myoepithelioma / Myoepithelioma Solid pseudopapillary neoplasm
9. 黒濱大和 / 長崎医療センター病理診断科 / 37 / 男性 / 乳腺 / 乳腺腫瘍 / Invasive carcinoma of no special type (WHO) / 乳頭腺管癌 (規約) Triple negative / basal-like type) Invasive carcinoma of no special type (WHO) / 乳頭腺管癌 (規約) Triple negative / basal-like type) Adenoid cystic carcinoma ?
座長：黒濱大和 (長崎医療センター病理診断科)
10. 石原 明 / 県立延岡病院 / 84 / 男性 / 左眉毛部 / 左眉毛部皮膚腫瘍 / Merkel cell carcinoma / Merkel cell carcinoma / Merkel cell carcinoma
11. 本田由美 / 熊本大学医学部附属病院 病理診断科 (病理部) / 63 / 女性 / 後頭部 / 後頭部皮膚腫瘍 / Apocrine carcinoma / Apocrine carcinoma / Apocrine carcinoma
12. 荒金茂樹 / 大分大学 診断病理学講座 / 8 / 女性 / 馬尾 / 馬尾腫瘍 / Clear cell meningioma / Clear cell meningioma / Clear cell meningioma

症例番号 / 演題種別 / 座長氏名 / 座長の所属 / 発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名 討論内容

- 1 / 演題 / 居石克夫 / 福岡東医療センター・福岡徳洲会病院 / 林 洋子 / 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病理学 / 50 代 / 女性 / 肺 / インフルエンザ B 感染の治療経過中に壊死性肺炎で急激な経過で死亡した一剖検例 / 壊死性肺炎
- 2 / 演題 / 居石克夫 / 福岡東医療センター・福岡徳洲会病院 / 佐藤奈帆子, 入江康司 / 北九州総合病院病理診断科, 産業医科大学第2病理学 / 56 / 女性 / 動脈 / 著明な動脈硬化を呈した全経過 37 年のパーチェット病の剖検例 / パーチェット病

第 347 回九州・沖縄スライドコンファレンス (臨床との合同コンファレンス, 男性泌尿生殖器) が下記のように開催されました。

日時：平成 27 年 9 月 12 日

場所：宮崎大学医学部付属病院

世話人：宮崎大学医学部病理学講座

構造機能病態学分野 浅田 祐士郎教授

腫瘍・再生病態学分野 片岡 寛章教授

臨床コメンテーター：宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座

泌尿器科学分野 賀本 敏行教授

病理コメンテーター：名古屋第二赤十字病院

病理診断科 部長 都築 豊徳先生

参加人数：113 名

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名

座長：三好寛明 (久留米大学)

1. 大塚洋 / 九州大学形態機能病理 / 0 / 女性 / 腎臓 / 両腎腫瘍 / Denys-Drash syndrome lt: Nephroblastoma (Wilms tumor), mixed type, rt: Nephroblastoma (Wilms tumor), intralobar type / Denys-Drash syndrome lt: Nephroblastoma (Wilms tumor), mixed type, rt: Nephroblastoma

(Wilms tumor), intralobar type / Nephroblastoma (Wilms tumor)

2. 中村恵理子 / 宮崎大学 / 69 / 女性 / 右腎 / 右腎腫瘍 / Renal cell carcinoma, unclassified / Renal cell carcinoma, unclassified / Renal cell carcinoma, unclassified
3. 小山雄三 / 大分大学診断病理学 / 19 / 女性 / 右腎 / 右腎腫瘍 / ALK-positive renal cell carcinoma / ALK-positive renal cell carcinoma / Bellini duct carcinoma (collecting duct carcinoma)
座長：林 博之 (九州医療センター)
4. 草場 敬浩 / 大分大学診断病理学 / 40 / 女性 / 右腎 / 右腎腫瘍 / Renal cell carcinoma with t (6; 11) / Renal cell carcinoma with t (6; 11) / Renal cell carcinoma, chromophobe
5. 木下史生-黒岩顕太郎-丸塚浩助 / 県立宮崎病院 泌尿器科-病理診断科 / 70 代 / 男性 / 左腎 / 左腎腫瘍 / Renal cell carcinoma, mucinous tubular and spindle cell carcinoma / Renal cell carcinoma, mucinous tubular and spindle cell carcinoma / Renal cell carcinoma, mucinous tubular and spindle cell carcinoma
6. 田崎 貴嗣 / 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 病理学 / 0 / 男性 / 腎臓 / 腎病変 / Congenital nephrotic syndrome of Finnish type / Congenital nephrotic syndrome of Finnish type / Congenital nephrotic syndrome of Finnish type
座長：住吉真治 (熊本大学 病理部病理診断科)
7. 林博之 / 国立病院機構九州医療センター / 71 / 男性 / 腎臓 / 腎臓腫瘍 / (1) Clear cell renal cell carcinoma, (2) Clear cell papillary renal cell carcinoma / (1) Clear cell renal cell carcinoma, (2) Clear cell papillary renal cell carcinoma / (1) Clear cell renal cell carcinoma, (2) Clear cell papillary renal cell carcinoma
8. 下釜達朗 / 製鉄記念八幡病院 病理診断科 / 80 代 / 女性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Squamous cell papilloma / Squamous metaplasia / Non-invasive papillary urothelial carcinoma
9. 前川和也 / 宮崎大学医学部病理学講座 (構造機能病態学分野) / 23 / 男性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Papillary urothelial neoplasm of low malignant potential / Papillary urothelial neoplasm of low malignant potential / Papillary urothelial neoplasm of low malignant potential
座長：鳥尾義也 (県立宮崎病院病理診断科)
10. 吉村雅代 / 福岡大学医学部病理学教室 / 47 / 男性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Paraganglioma / Paraganglioma / Paraganglioma
11. 神尾多喜浩 / 済生会熊本 / 30 / 女性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Inflammatory myofibroblastic tumor / Inflammatory myofibroblastic tumor / Inflammatory myofibroblastic tumor
12. 増田正憲 / 佐賀大学医学部病因病態科学講座診断病理学 / 0 / 男性 / 尿道 / 尿道腫瘍 / Fibroepithelial polyp of the vermontanum (congenital polyp) / Fibroepithelial polyp / Fibroepithelial polyp
座長：前川和也 (宮崎大学 構造機能病態学分野)
13. 梅北 佳子 / 宮崎大学医学部病理学講座腫瘍・再生病態学 / 92 / 女性 / 外陰 / 外陰部腫瘍 / Pagetoid spread of urothelial carcinoma / Pagetoid spread of urothelial carcinoma / Pagetoid spread of urothelial carcinoma / Extramammary Paget's disease
14. 秋岡貴弘-黒岩顕太郎-鳥尾義也 / 県立宮崎病院 泌尿器科-病理診断科 / 60 代 / 男性 / 精巣 / 精巣腫瘍 / Leydig cell tumor / Leydig cell tumor / Leydig cell tumor
15. 黒濱大和 / 長崎医療センター病理診断科 / 30 男性 / 精巣 / 精巣腫瘍 / Burned-out tumor with IGCNU (intratubular germ cell neoplasia, unclassified) / Burned-out tumor with IGCNU (intratubular germ cell neoplasia, unclassified) / Intratubular germ cell neoplasia

=====
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：村田哲也（委員長）、望月 眞（副委員長）、深澤雄一郎（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、九島巳樹（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、桑江優子（近畿支部）、串田吉生（中国四国支部）、大石善丈（九州沖縄支部）
=====